

平成 28 年 11 月 25 日

平成 28 年度第 1 回 IR 初級人材研修会（パイロット事業）について

茨城大学<sup>1</sup>  
九州大学<sup>2</sup>  
大学評価コンソーシアム

1. はじめに

教育の質保証を行う上で、必要な情報の収集、分析、および提供は不可欠な業務となります。そのための 1 つの機能として Institutional Research (IR) があります。我が国では、IR オフィスを設置したり、設置を計画する大学が急増しておりますが、それら IR 人材育成のための研修の機会が十分ではない面があります。

茨城大学では、卒業時の質保証のために内部質保証システムの構築を行い運用する実践的取り組みを進めており、平成 28 年度の大学教育再生加速プログラム（テーマ V 卒業時の質保証）に採択されました。この事業の中で内部質保証システムへの IR による効率的支援の実践手法や事例の提供を計画しています。また、九州大学では教育関係共同利用拠点の指定を受け、内部質保証システムの構築、運営の支援を行う IR 人材の育成について研修プログラムの開発と実施を行っています。これらの 2 大学では、評価担当者・IR 担当者の全国組織である大学評価コンソーシアムの協力を得て IR 初級人材育成研修プログラムの開発を進めており、この度、パイロット版の研修会としてその一部を提供させていただくことになりました。この研修会を通して、参加のみならずからはプログラム向上のための様々なフィードバックをいただくことを計画しております。

これまでに、大学評価コンソーシアムにおいて、評価・IR 人材に必要な知識・能力に関するルーブリック（要素別能力段階表：表参照）を整理しております。今回はルーブリックの能力要素「収集」のうち「初級レベル」の内容の知識・能力のある者を対象としたパイロット研修「初級編 [データ収集]」（九州大学が担当）を行います。また、「初級レベル」以前の方（今後、IR 業務を担当される方など）に向けた IR 業務全般を理解するための入門編も試行実施させていただきます（茨城大学が担当）。

次年度からの本格実施に向けての試行事業ではあるものの、多くの方にご参加いただき教育の質保証における必要不可欠な人材育成にご協力いただければ、と思います。

2. 主催

茨城大学、九州大学、大学評価コンソーシアム（50 音順）

3. 日時・会場

平成 28 年 11 月 29 日（火） 9：30－16：20

---

<sup>1</sup> 大学教育再生加速プログラム（AP）事業

<sup>2</sup> 基幹教育院次世代型大学教育開発センター

キャンパス・イノベーションセンター東京（田町駅前）多目的室1、4

<http://www.cictokyo.jp/access.html>

（東京都港区芝浦3-3-6）

#### 4. 開講コースと対象者

##### 1) 初級編 [データ収集]

- ・大学等でIR部署等に所属して業務を行っており、IRに関するデータ収集業務において、評価・IR人材ルーブリックの「初級」に至りつつある者（概ね半年から1年程度の業務経験がある者）

##### 2) 入門編

- ・これからIR業務を担当する予定の者（業務経験がない者）
- ・IR業務を担当している者で、初級レベルに相当程度達していない者（概ね1年未満の業務経験しかない者）

※今回はパイロット版のため、これらのレベルは超えているが知識・技能を再整理したい方や、フィードバックにご協力いただける中級、上級者の方も受講いただけます。

※これらの2コースは同時平行開催のため、どちらか1コースにのみ参加いただけます。

#### 5. 定員と受講料

それぞれ25名とします。受講料は徴収しません（AP事業、拠点事業経費による）。

#### 6. 研修会の内容とスタッフ

##### 1) [初級編]（主担当：九州大学 小湊卓夫）

目的：本研修では、IR初級者（活動経験が1年程度）が直面する課題に関し、重要と思われる知識や観点を整理する中で、課題解決に向けたきっかけを得ることを目的とします。

進め方：最初にIRの設計と収集に関する講義を行い、その後、質疑応答をします。午後の演習ではIRの設計及びデータ収集に係るテーマを設定し、そのテーマに対してワールド・カフェを用いたワークショップを行います。

ルーブリックにおける目標：

知識・能力等		初級水準
活動の設計	IR	収集/分析の目的や活動の設計の内容を理解できる。必要なデータとその分析手順について理解できる。
収集	所在把握と入手	誰に依頼すれば、もしくはDBのどこにアクセスすれば必要なデータが得られるのか概ね把握しており、それらを手に入れることができる。
	整理	入手したデータをオフィス内で再利用可能な形で整理して保管することができる。

## タイムテーブル

時限	科目	担当	内容
1 (9:30-10:20)	講義：概論 1	小湊	IRが必要とされる背景とIR室の設計を踏まえたIRの概略についてあつかう。
2 (10:35-11:25)	講義2：収集	大野	IR活動を行う上で必要な一般的なデータ収集についての具体的な課題と対応策について述べる。
3 (11:45-12:20)	質疑応答		
4 (13:30-16:20)	演習：収集	小湊・大野・藤井	ワールド・カフェなどを用いて収集の課題について解決のヒントを探り、参加者で共有する。

## 演習の流れ

- 13:30-13:40 目的と手順の説明
- 13:40-14:20 セッション1 (設定されたテーマについて、グループで議論)
- 14:20-15:00 セッション2 (テーブルに1人残り、他の者は別のテーブルにつき議論)
- 15:00-15:30 セッション3 (元のグループで議論)
- 15:30-15:50 個人ワーク (個人の課題について解決策を練る)
- 15:50-16:15 グループワーク (個人ワークの内容について、グループで議論)

## 講師、進行担当スタッフ：

小湊卓夫 (九州大学 基幹教育院)

大野賢一 (鳥取大学 大学評価室/学長室 IR セクション 学長特別補佐 (IR 担当))

藤井都百 (名古屋大学 評価企画室)

## 2) [入門編] (主担当：茨城大学 寫田敏行)

・入門編では、これからIR業務を担当するにあたり準備を進めている過程で出てきた疑問や、業務を始めてみて出てきた課題などについて事前に質問・コメントを受け付け、それらをもとに内容を構成する「IR入門のためのQ&A」が主要なコンテンツとなります。

## タイムテーブル

時限	科目	担当	内容
1 (9:30-10:20)	講義：IR機能とIRにできること	寫田	IRの機能と求められる役割について概説。
2 (10:30-11:20)	講義：IR担当者の仕事～実践事例から	山本	機能面(組織)の説明は少なめにし、1)リクエスト(依頼)→2)リサーチデザイン→3)収集→4)分析→5)結果報告(活用)の流れに沿って、具体例を解説(何ができるのか、というイメージを
3 (11:30-12:20)	講義：清泉女子大学におけるIR業務	白石	

			附与) ※事前質問をもとに内容を調整。
4 (13:30 -14:20)	講義: IR 入門のための Q&A	講師: スタ ッフ全員	事前質問をもとに Q&A を構成し、その 解説を行う。
5 (14:30 -15:20)			
6 (15:30 -16:20)	演習: IR 入門のためのグ ループ討論	講師: スタ ッフ全員	事前質問の内容をもとにテーマを設定 し、2名もしくは4名で討論(情報交換) を行い、学んだことを整理する。

#### 講師、進行担当スタッフ

畷田敏行 (茨城大学 全学教育機構総合教育企画部門 [IE オフィス])

山本幸一 (明治大学 教学企画部 評価情報事務室)

藤原将人 (立命館大学 教学部 学事課)

白石哲也 (清泉女子大学 情報環境センター (IR))

橋本智也 (京都光華女子大学 EM・IR部)

[原則、設営・撤収時のみ] 佐川明美 (茨城大学 全学教育機構総合教育企画部門 AP 事業室)

[企画・事前質問への回答のみ] 末次剛健志 (佐賀大学 総務部企画評価課 (IR 主担当))

#### 7. 申し込み方法と今後のスケジュール

・平成 28 年 11 月 15 日 (火) 13 時から申し込み受付を開始します。次の web サイトからお申し込みください。入門編に参加の方は、申込画面の入力フォームに事前質問 (少なくとも 2、3 問) も入力してください。

<http://apie.ibaraki.ac.jp/index.php?page=app>

11 月 21 日 (月): 申し込み締め切りおよび [入門編] 事前質問の締め切り

11 月 25 日 (金): 研修会資料の web 配布開始

11 月 29 日 (火): 第 1 回の開催

※定員に達した場合は、申込締め切り日前に受け付けを終了させていただきます。

#### 8. 参加者へのお願い

・パイロット事業のため、研修会の内容について詳細なアンケートを実施する予定です。ご協力よろしくお願いします。

・入門編にご参加の方は、申し込み時に課題と質問事項をご入力ください。

・テキストは原則的に電子配布とし、当日の配布物は行いません。予習時間を踏まえ、11 月 25 日 (金) 16 時 (予定) には web サイト (7. に記載) にアップします。紙媒体のほうが受講しやすい方は、印刷してご持参ください。

#### 9. 開催について

このセミナーの開催には、以下の経費を用いております。記して謝意を述べさせていただきます。

平成 28 年度大学教育再生加速プログラム (AP)「高大接続改革推進事業」テーマ 5 卒業時における質保証の取組の強化 (取組実施校 : 茨城大学)



教育関係共同利用拠点 次世代型教育開発拠点 (九州大学 基幹教育院 次世代型教育開発センター)

#### 10. その他

- ・ 2月 28 日 (火) に、分析もしくは活用をテーマに第 2 回の IR 初級人材育成研修会 (パイロット版) を九州大学を会場に開催する予定です。
- ・ 今回のパイロット版の実施をふまえ、平成 29 年度には本実施を予定しています。

表. 大学評価コンソーシアムが提案した評価・IR 担当者に必要な知識・スキル

能力等/段階の目安		初級	中級	上級
活動の設計	評価	評価(収集/分析)の目的や活動の設計の内容を理解できる。必要なデータとその分析手順について理解できる。	評価(収集/分析)の目的を明確にし、具体的な活動を概ね設計できる。即ち、必要なデータとその分析手順についてある程度設計することができる。	評価(収集/分析)の目的を明確にし、具体的な活動を設計できる。即ち、必要なデータとその分析手順について設計することができる。適切な状況把握のための指標の選定ができる。
	IR	収集/分析の目的や活動の設計の内容を理解できる。必要なデータとその分析手順について理解できる。	依頼内容から収集/分析の目的を明確にし、具体的な活動を概ね設計できる。即ち、必要なデータとその分析手順についてある程度設計することができる。	依頼内容から収集/分析の目的を明確にし、具体的な活動を設計できる。即ち、必要なデータとその分析手順について設計することができる。適切な状況把握のための指標の選定ができる。
収集	所在把握と入手	誰に依頼すれば、もしくはDBのどこにアクセスすれば必要なデータが得られるのか概ね把握しており、それらを手に入れることができる。	誰に依頼すれば、もしくはDBのどこにアクセスすれば必要なデータが得られるのか把握しており、それらを手に入れることができる。	既存のデータがない場合に新たな調査を実施したり、定義が曖昧な場合、それらを調整することができる。
	整理	入手したデータをオフィス内で再利用可能な形で整理して保管することができる。	入手したデータをオフィス内で再利用可能な形で整理して保管することができる。各データの定義や入手経緯等もまとめておくことができる。	入手した各種データを組み合わせる形で、他部署も使いやすい形でデータを整理することができる。データマネジメント組織としての活動を推進できる。
分析	文章とりまとめ	叙述資料をとりまとめて、整理することができる。	叙述資料の内容を精査し、校正することができる。	叙述資料について、目的に応じて適切な量の文章にまとめることができる。
	数量データ解析	数量的なデータを集計したり、グラフを作成することができる。	複数の数量的データを組み合わせて傾向や特徴を掴むなどの操作ができる。その上で、必要な表やグラフを作成することができる。	基礎的な統計学の知識を有し、データの持つ意味について客観的な考察ができる。
	解釈	傾向や現状を概ね説明することができる。	複数のデータから自大学の置かれた状況を概ね解釈することが出来る。	複数のデータから自大学の置かれた状況を解釈し、依頼者に分かりやすいストーリーを構成することができる。
活用支援(レポートिंग)		指示を受けた表やグラフや報告書を提供できる。	依頼者の期待に応えた報告書の作成や、口頭報告を行うことができる。	依頼者の期待に加え、政策的な流れ、学内での経緯などを踏まえた報告書の作成や、口頭報告を行うことができる。継続的改善を見越した示唆をさりげなく盛り込むことができる。